

No 17

ひろば 大代

555.1219

大代公民館

昭和五十五年度

公民館活動を顧みて

公民館長 花田三郎

今年も師走、あと旬日を残すのみとなり、皆様何かと気忙しい事と思います。公民館運営につきましては大なる御協力を戴き心から感謝申し上げます。

高山会館をよりどころとして各種のクラブ活動が盛んに行われ、着々と成果を納められていきます。技術の向上は勿論のこと、実に和やかな雰囲気でした。忙しい中にも努めて研修なさる姿は頼もしい限りです。一寸考えますと現在の所、全町民の公民館利用度は極めて僅少で今後に期待するのみです。これにはそれなりの活動を疎害する諸々の

条件が有りましよう。其の一つは公民館自体に有る事は言まされません。深く御託が申し上げます。研修は機会を得る事が難しいものですが、意識のモチ方によるところが多い様に思われますが、隘路は皆様方の熱意と意気により明るい方向に好転させ、個人でも出来る学習、研鑽を進めたいものと思えます。

今年度の反省をもとに、来年度こそ総力の結果により豊かな人間関係と生きがい求めてのびのびと御上づくりに励みたいものと思えます。来年度に夢を希望をかけたて行こうではありませんか。

御挨拶お揃いでよい迎春となります事を御祈り致します。
 ガループ活動の現況

◆大江高山神楽

社中の起り

筆本政良

終戦間もない頃、收穫を祝う秋祭を賑やかに思い、同志十数人、昼の疲れも構わず練習に励み、皆さん方と一緒に楽しめる様になりました。

然し当時若かつた同志も老令化し、後継者育成の問題と、高価な衣裳づくり等に色々心配しているところであらう。

なんとか石見大元神楽舞を保存し御上の民芸として続けたいと思つて居ります。町民の皆様、此の上芸宣敷御指導を賜ります様御願ひ申し上げます。

◆読書会員として

得たもの

渡利満枝

先達の熱心な御指導で幅広い文学の道根、カセット

やビデオを併用しての学習で理解し易く、読後感想に色々と言つた受取り方があり又内容に因って社会問題や、日常生活の話題も出て大変勉強になりました。

書物の中に人生が織り込まれて有る様に松自身は四季折々の風趣に心を傾け人間関係の機微を感じとり事の出来る人間になる様、充実した生き方を読書会で学び得た事を感謝致しております。

◆茶道に楽しむ

荒本貴和子

婦人会の部活動として茶道が二年前に発足しました。茶道について知る事は日本古来の美風を知る事です。

裏千家流の渡綾子先生が茶の湯の奥前を教えて下さいます。現在は五名の部員です。茶の湯は今や世界的に沈

目されていきます。みんな一生懸命勉強してきます。

多忙な現代でも茶の湯をたしなむと云う事は日本人として大切だと思えます。

お茶を頂く時の落ちついた気持ちにはまた格別です。一人でも多くの参加者があります様希望しております。

◆安末節を学んで

熊倉真智様

県外へ旅行した場合など島根だと云えばすぐ「出雲大社」のお膝元です。安末節も教つて呉れません。その言葉が返つて来ます。

その度に、なんとか安末節が教える様になりたいものだとお心が収が思つていました。

ところが、六月より矢上の渡辺先生御夫妻が安末節の出張授業して下さる事を耳にし、躍り上る思いで仲間に入れて頂き、五月、た

かが民謡と軽く考えていたのに習い出して見て、つくづく安末節のむづかしさ、奥の深さに驚きました。

でもあの軽快な三味線のリズムに少しづつでも合わせて教える様になった喜び

本音に安末節の練習を始め、それが、何時の日か、島根県人です。安末節の本場です。と堂々胸を張つて云

えろことを夢みて、五十の手習い、頑張つていきます。

◆ちぎり絵クラブ

谷口トメヨ

私がちぎり絵を始めたのは入院生活の時です。そのすばらしさに感動し、自分にも出来る自信を得ました。

近所の方にも教えてあげたい、今では十八人にもなっています。

特に習つたと云う分では有りませんが、見本も参考

にしたう、本を見たり、色々の組合せを深しみ下ら取組んでいきます。出来た作品を批評し乍ら話し合うのも深しみの一つです。

これも仲間がいるからこそ出来るのだと思えます。

◆ 郷土を知り

昔を知ろう (6)

禪宗(曹洞宗)

真龍山大光院

大字新屋字右原

一寺格 四法地

二本尊 釈迦如來 木像

三眼仏 門瑞菩薩 木像

普賢菩薩 木像

四開基 藤原兼継

玉開山 洲山和尚

六棟丸 あり、それに依ると天保六年(一八三五)

卯年二月五日本堂再建、住

軒十二女知学、代願せ、新

屋村信徒、新屋嘉十郎、大

工、思松、島田又六、木挽

当所、松尾作兵衛とある。七曲緒及伝説

元大家西の御地頭三郎大郎藤原兼継即ち宗濃大守昭

基であり、当時大家西の御(現在温泉津町并田の太田)に建立してあった。今より約四百年前、宗補大禪師

により(大代町新屋一〇七七番地)に移転したか、天保元年(一八三〇)焼失し

天保二年、知学和尚に依り再建が進められた。

参考資料

大代町誌

新在寺案内

(記事担当、山本清助)

訂正 御託が!!

先月号のひろは大代の中で、ガループの紹介記事、書の道に取組んでの作者、

五里会員、後藤マサエとあるも、同会員坂本武人に訂正致します。